

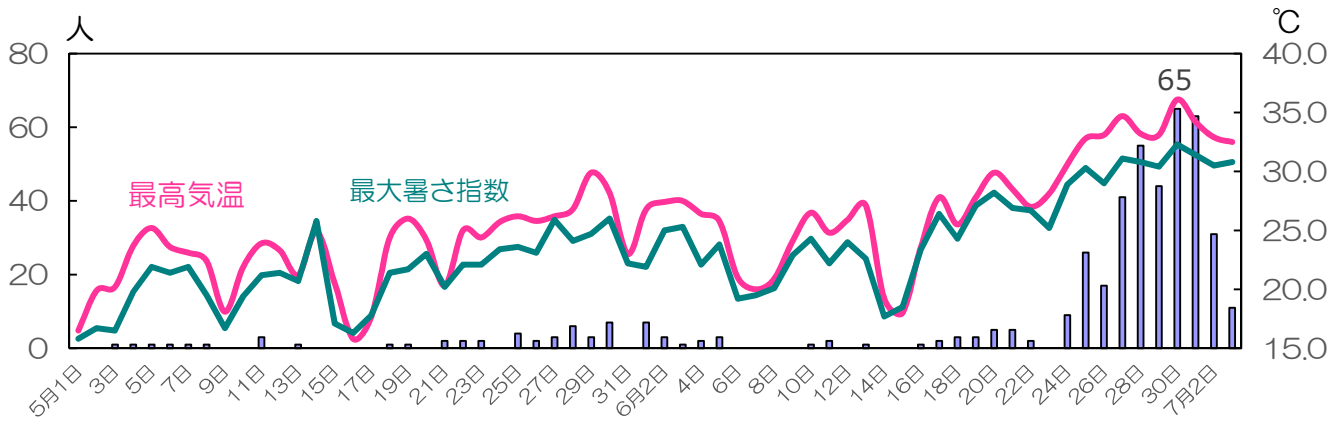
熱中症情報

<搬送数>

令和4年5月1日～7月3日までの搬送数（消防局データを使用）は、計446人（5月43人、6月298人、7月105人）でした。6月30日は最高気温36.1℃で、搬送数が65人/日でした。合計の搬送数は、前週の3.3倍と急増しています。

熱中症は、暑い日が続いてくると多発する傾向があり、気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さに慣れていない時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。



昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。

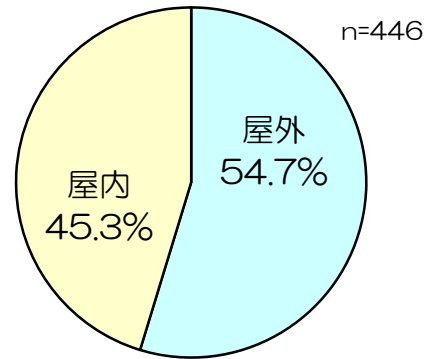
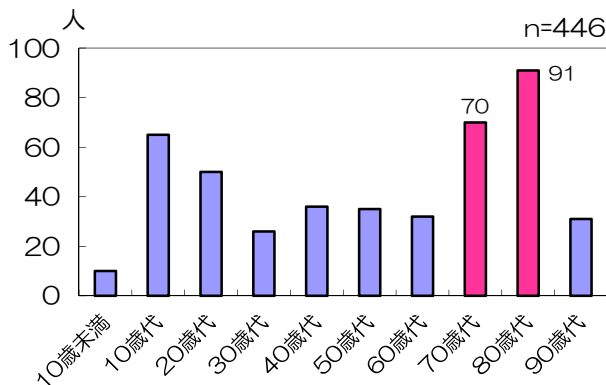
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト **暑さ指数(WBGT)とは？**」をご覧ください。

<年齢別>

80歳代が91人（20.4%）で最も多く、次に70歳代70人（15.7%）でした。

<発生場所>

屋外54.7%、屋内45.3%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症58.5%、中等症37.4%、重症3.6%、重篤0.4%でした。重症と重篤の割合が増加しました。高齢者（65歳以上）は中等症以上の割合が59.4%で、高齢者に重症化する傾向がみられます。

